

# 大田区立松仙小学校 授業づくりガイドライン

## めあて・見通し(約5～10分間)

### 前時までの 活動を振り返る

前時までの活動が、本時の活動と直結する場合には必要である。これを行うことで、本時の活動のめあてや見通しが明確になることもある。

### 本時の活動の めあてを確認する

学習のねらい＝何を学ぶかということ。前時の終わりに児童と立てておくのが基本。活動目標になる場合と達成目標になる場合の両方がある。

### 本時の活動の 見通しを立てる

学習のなりゆき＝どのように学ぶかということ。単なる流れではなく、解決の見通し、自己関与の見通し、可能性の見通しなどを問うようにする。

三個の活動から、本時のねらいなどに合わせて選択し、順序や発問を考えておく。

## 中心的な活動(約25～35分間)

### 個人で活動する

一人一人の思いや願いの実現がもっとも可能となる方法。教師は、事前の予想に基づく環境構成、個別の指導・支援が求められる。友達などとの関わりとともに、個人が学習対象と向き合っ黙々と取り組むことも大切にしたい。

### 少人数で活動する

一人の児童の意見で活動が進むことのないように、話し合い方や付箋の出し方、まとめ方などを、全教科などを通じて指導する必要がある。教師は、指導と評価を行いながら、全体での活動に向けて、構想や作戦を立てる。

### 全体で活動する

グループごとの発表・報告は、原則として実施しない。個人やグループの活動で考えたことなどを、一人一人が自分の言葉で発言する。教師の役割は、児童の発言に問い返したり、構造的な板書をしたりすることである。

本時の目標を踏まえて、三個の活動から二個を選択する。付箋や考えの活用を必要とするときについては、十分に吟味する必要がある。

## まとめ・振り返り(約5～10分間)

### 本時の活動の まとめをする

めあてに対応するもの。学習した内容や方法、進捗状況などの整理や確認を意味している。ここまでを見通した板書計画が求められる。

### 次時のめあてや 見通しを立てる

次時では何をしたい(すべき)かを決める。その上で、可能な範囲で、どのようにするのかを考える。次時のめあて・見通しにつながる。

### 本時の活動を 振り返る

見通しに対応するもの。自分の学習の省察、捉え直し、味わい直し。基本は、文章を書くことによって行う。振り返りの視点を示すことも有効。

三個の活動全てを左から順に行うことが望ましい。それぞれの活動の学習形態は、本時のねらいなどを踏まえて考える。

## 大田区立松仙小学校 単元づくりガイドライン

### 単元の学習対象や学習活動と出会う。(第0時)

日常生活における  
児童のつぶやき  
アンテナを高く張るとともに、意図的に働きかけることも大切。

他教科等での  
学習活動  
各教科などの関連を見通して、単元の入れ替えも考えられる。

前の単元との  
つながり  
ある単元が終わることで、次の単元が立ち上がることもある。

きっかけにひと手間・ひと工夫すること、その後の意欲の高まりが変わる。

### 単元の見通しを立てる。(1～2時間)

具体的な活動や  
体験をする  
とりあえずやってみることによって、やりたいことなどが見付かる。

やりたいことや  
経験を出し合う  
園などでの経験を基にすると、そこから新たな発想も生まれる。

活動計画や  
単元名を決める  
意見を分類、順序付けなどする。単元名に思いや願いを込める。

ここで立てる見通しは、暫定のものである。当然、活動しながら修正していく。

### 体験活動と表現活動を繰り返す。(1～2つの小単元)

直接働きかける学習活動  
例えば、見る、聞く、触れる、作る、探す、育てる、遊ぶなど、いわゆる体験活動である。気付いたことを基に考えることができるようにするため、見付ける、比べる、たとえば、試す、見通す、工夫するなどの多様な学習活動を行うようにする。したがって、教師の支援や環境構成の工夫が大切である。

表現する学習活動  
例えば、言葉、歌、絵、動き、劇など、いわゆる表現活動である。表現活動の多様な方法を活用するとともに、その対象や目的、方法などを吟味し、そこに教師の指導性を埋め込むことが求められる。それによって、気づきが確かなものとなったり、気付いたことが関連付けられたりしていく。

体験と表現、インプットとアウトプット、拡散と収束といった場面を意図的に設定する。掲示物を工夫し、活動の発展を可視化する。

### 単元を振り返る。

多様な方法を使って表現する  
誰かに伝えたいという意欲を基に、表現を通して振り返る。

自分自身や自分の生活について考える  
自分との関わり、心身の成長、自分のよさや可能性などに気付くようにする。

振り返ったことを  
伝え合う  
一人一人の考えを伝え合い、関連付けることで、クラスのまとめができる。

単元の終わり方も児童と決めると、思いや願いが実現する振り返りとなる。

※これらの活動が、子供たちの思いや願いの実現に向けた一連のストーリーとなるように、つながりのある活動を想定する。

## 大田区立松仙小学校 単元づくりガイドライン

### 単元の学習対象や学習活動と出会う。

**日常生活における  
児童のつぶやき**  
アンテナを高く張るとともに、意図的に働きかけることも大切。

**他教科等での  
学習活動**  
各教科などの関連を見通して、単元の入替えも考えられる。

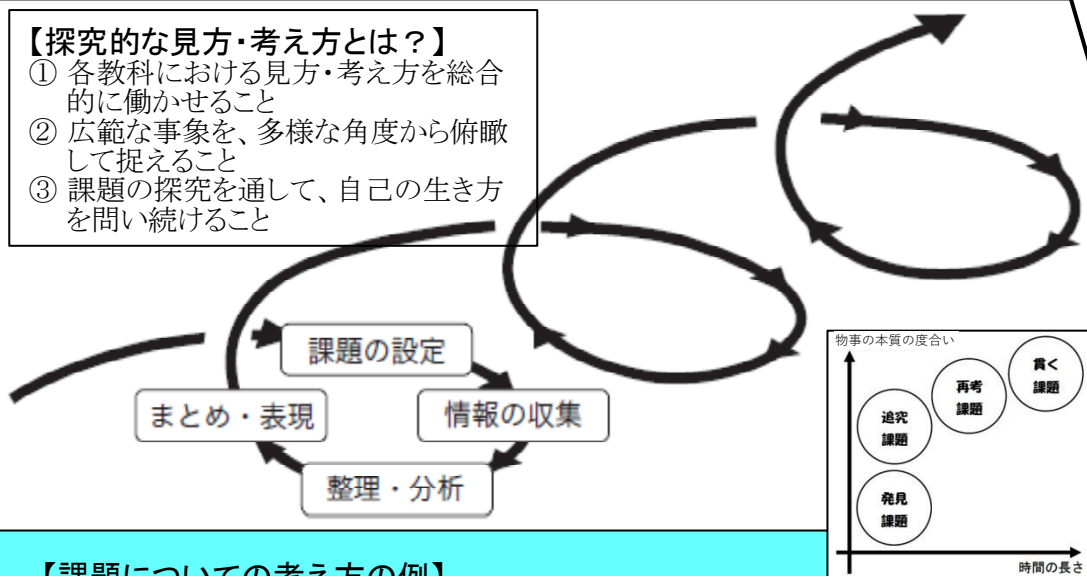
**前年度の  
総合の学習経験**  
内容面や方法面のつながりを活かして、単元と出会う。

どこまで与えて、どこから出会うさせるかを、学年研などでよく検討する。

### 探究的な学習の過程を発展的に繰り返す。

#### 【探究的な見方・考え方とは？】

- ① 各教科における見方・考え方を総合的に働かせること
- ② 広範な事象を、多様な角度から俯瞰して捉えること
- ③ 課題の探究を通して、自己の生き方を問い続けること



#### 【課題についての考え方の例】

- 発見課題**…出会いのあと設定する課題。子供たちの素朴で率直な疑問を解決しようとするもの。
- 追究課題**…文字通り、追究や解決に値する課題。
- 再考課題**…追究課題について、取組を通して考え直したり、他者からの評価を受けたりして、設定するもの。
- 貫く課題**…単元を貫くテーマのこと。活動の最終目標ややりたい姿など、本質的で長期にわたる課題や見通し。

小単元は、年間で三〜五個程度を想定し、一つの小単元の中で、探究的な学習の過程を細かく何度も繰り返す。単元の見通しが立てられたときなどの適切なタイミングで、単元名を児童と話し合って決める。

### 単元を振り返る。

**多様な方法を使って表現する**  
誰かに伝えたいという意欲を基に、表現を通して振り返る。

**自己の生き方について考える**  
自分の生活や行動、学ぶことの意味や価値、人生や将来などを考える。

**振り返ったことを伝え合う**  
一人一人の考えを伝え合い、関連付けることで、クラスのまとめができる。

学習の内容や方法をまとめるとともに、自分を見つめて変化や成長に気付かせる。